

様々な人々に愛され、支えられて成長している自分に気づくことができる。

1 2 , 新学習指導要領との対応

(8) 多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

1 3 , 授業展開の基本的考え方

(1) 家族とのふれあい

1年生での実践を行った。道德のテレビで、「生まれてきた恐竜の赤ちゃんに、その両親がとても悩んで名前を付け、生まれたことを盛大にお祝いする」という内容のものに大変興味を示した。ちょうど、同じ時期に、国語の言語領域「もののなまえ」を学習しており、「名前」に関する興味が高まっていたようだ。

担任の名前の由来を話すと、「自分たちの名前のわけを調べてみたい」と言いだし、調べ学習が始まった。

まずは、家族へのインタビューである。家庭学習で、どの子も大変くわしく調べてきた。家族で生まれたときの写真を貼ったり、ご両親の温かいコメントが載っていたり、大変楽しく取り組んだ様子が見えた。

(2) 発信、新しい興味

調べたこと、自分のことを話したくてたまらない子どもたち。教室で発表し合うだけでなく、ホームページでも公開することにした。

友達の名前、両親の願いを話し合う子どもたちはどの子も、いい笑顔になる。そのうちに、外国人の名前もわけがあるのか？ペットは？お店は？などと話が広がる。個人の興味の応じて課題を設定し、調べ学習を始めた。

(3) 電子メールによる交流

外国に住む方との交流は、電子メールで行った。メーリングリストを利用して「小学生とのメールの交換」に興味のある方を募集したところ、各国から参加いただいた。主に、海外在住の

主婦・学生のかたが多かった。

今回は低学年での実施ということで

子どもたちの考えた質問を担当がメールで送った。子どもたちは、「お願いします。という言葉を入れた方がいいよ」などと、相手を意識した言い方を考え、文章を作っていた。

コンピューターがあれば、世界中の人々と、簡単につながるができる、ということに驚き、早く返事が来ることを待ち望む姿が見られた。

(4) 思いを共有して

子どもたちへの返事がつぎつぎと送られてきた。「アメリカで付けられる名前ベスト10とその由来」や「インドの方の名前の由来」「タイのあだな」「アメリカ人のお父さん

と日本人のお母さんの間に生まれたうちの子の名前はね・・・」などなど。どのメールも、子どもたちにとって興味深いものばかり。また、それぞれ、メールをくださった方たちの思いがあふれていた。

その思いを感じ取りながら、自分たちも、家族も、地域の人々も、外国の人々も、みんなに名前があり、

そこには、その名前を付けた人々の思いが込められている、ということを確認した。

このようにして「大切な自分」に気づいたとき、より深く自分を見つめることができるだろう。家族のひとりとして、友達の中のひとりとして、地域の、世界の、地球の、命ある人間のひとりとして、改めて考えたことをホームページに載せて発信した。

14, メディア活用の意義

本単元では、自分が生まれたときの様子や話を、家の人に聞いてくるという活動をメインに行う。

ここではさらに、ネットワークを活用して、「名前」をテーマに様々な人々とコミュニケーションすることを試みた。外国の方の名前はどうか、地域の人々はどうか・・・。

交流をお願いした方は、どなたも自分の名前の由来や自分の生き方を真剣に語ってくださる。文章を読んでいるだけで、その思いが伝わってくるようなものばかりである。

より多くの人々と交流し、その思いを共有することで、子どもたちは、視野を広げ、心豊かな生き方を考えることができるだろう。

15, メディア利用環境

sonyVAIO PCG-885 1台、ホームページビルダー2000、デジタルカメラ、

16, 学習展開

学習指導案略案

単元指導計画（全体時間7時間）

- (1) 自分の名前の由来を調べ発表し合う。
- (2) 課題設定
- (3) 課題に基づいた調べ学習
- (4) 様々な人々の思いを共有
- (5) 「大切な自分」を考える。話し合い。発信。

本時の目標と展開（本時はその7時間目）平成11年2月実践 児童31名

- (1) 人はすべて、大切な存在だということに気づくことができる。
- (2) さまざまな人々に愛され、支えられて成長している自分に気づくことができる。

学 習 活 動 機器、教材・教具 指導上の留意点

- 1 本時の学習課題を
確認する。
- ・学習プリント
 - ・前時の調べ学習での結果をいくつか挙げ、名前について学習することを確認する。

なまえのひみつをさぐるう

- 2 様々な人々の思い
を知る。
- ・いろいろな方から届いたメールをプリントしたもの・拡大したもの
 - ・世界地図・地球儀
 - ・お父さん、お母さんと赤ちゃんの写真・家族写真など
 - ・写真や地図などを使いながらいろいろな方から届いたメールを、教師が紹介する。
 - ・できれば、保護者の方に来ていただき、生まれたときの気持ちや子どもへの思い、願いなどを話してもらおう。
- 3 , 自分を振り返る
- ・プリント
 - ・改めて、自分の名前を振り返り、感じたことや、考えたことをまとめる。
 - ・なかなか、思いつかない児童には、いろいろな人のメールを聴いた感想を書かせてもよい。
- 4 「大切な自分」を
考える。
- ・プリント
 - ・班ごとにひとりひとりが考えたことを発表し合う。
 - ・「なまえ」から、いろいろな人々に支えられて、成長してきた自分に、気づくことができるようにする。
 - ・机間指導をし、話し合いを支援。
 - ・班の中から、いくつか全体へ発表させる。
 - ・話し合ったことを、ホームページで発信し、いろいろな人々にも一緒に考えてもらうことを知らせる。

17, 学習活動の実際、及び学習者の反応

添付データ参照

18, 学習評価の方法とその結果

評価の方法：観察、記述、発言

19, 授業の成果

コンピューターという魔法の箱を使って、教室の外へ出かけることができたような実践だった。

その箱を通して、子どもたちは遠いところにいる人々へあれこれと思いを巡らせる。さまざまな人とコミュニケーションし、思いを共有することで、子どもたちは直接心に響いてくる何かを感じたに違いない。

また、相手を考えた文章表現をするなど、主体的に工夫する姿も見られた。

教師側が適切な支援を行うことにより、低学年でもネットワークを効果的に活用することが可能だと感じた。

20, 今後の課題

- ・学校におけるインターネット環境の整備
- ・協力者の人材バンク化（児童とメールのやりとりをしてくれるような方）

21, 協力者

- ・日本に住む外国人の方
- ・海外に住む日本人の方

22, 本実践の成果を閲覧できる方法

なし（個人のULRで公開したため1年限り）

23, ワンポイントアドバイス

低学年では教師がパソコン機器の操作を行うことで、ネットワークが有効になります。

24, その他

特になし